

対象校、学級、人数、科目

資料1-4

対象校	学級	児童生徒数	該当科目等
徳島県立城北高等学校	1年生7クラス、2年生7クラス、3年生7クラス	合計836名	
徳島県立城ノ内高等学校	1年生6クラス、2年生6クラス、3年生6クラス	合計718名	
徳島県立徳島北高等学校	1年生8クラス、2年生8クラス、3年生8クラス	合計953名	
徳島県立つぎ高等学校	1年生7クラス、2年生7クラス、3年生7クラス	合計519名	
徳島県立池田高等学校定時制	1年生1クラス、2年生1クラス、3年生1クラス、4年生1クラス	合計21名	

事業の概要

- 校務系と学習系とのデータ連係にはファイル無害化装置を利用しUSB等を利用することによるセキュリティリスクの低減を図る。
- 統合型校務支援システム（校務系）の一部機能（出欠入力等）を教室等から利用できるよう仮想デスクトップを整備し教員の負担軽減を図る。
- 無線Wi-Fi環境を一元管理し学校の担当者の負担軽減を図る。
- Eラーニングを活用し、教職員の研修に係る負担を軽減する。
- テレビ会議システムの音声・映像の記録をAI等を活用し分析し、教員が客観的な評価ができる支援システムを構築し、教員の負担軽減を図る。

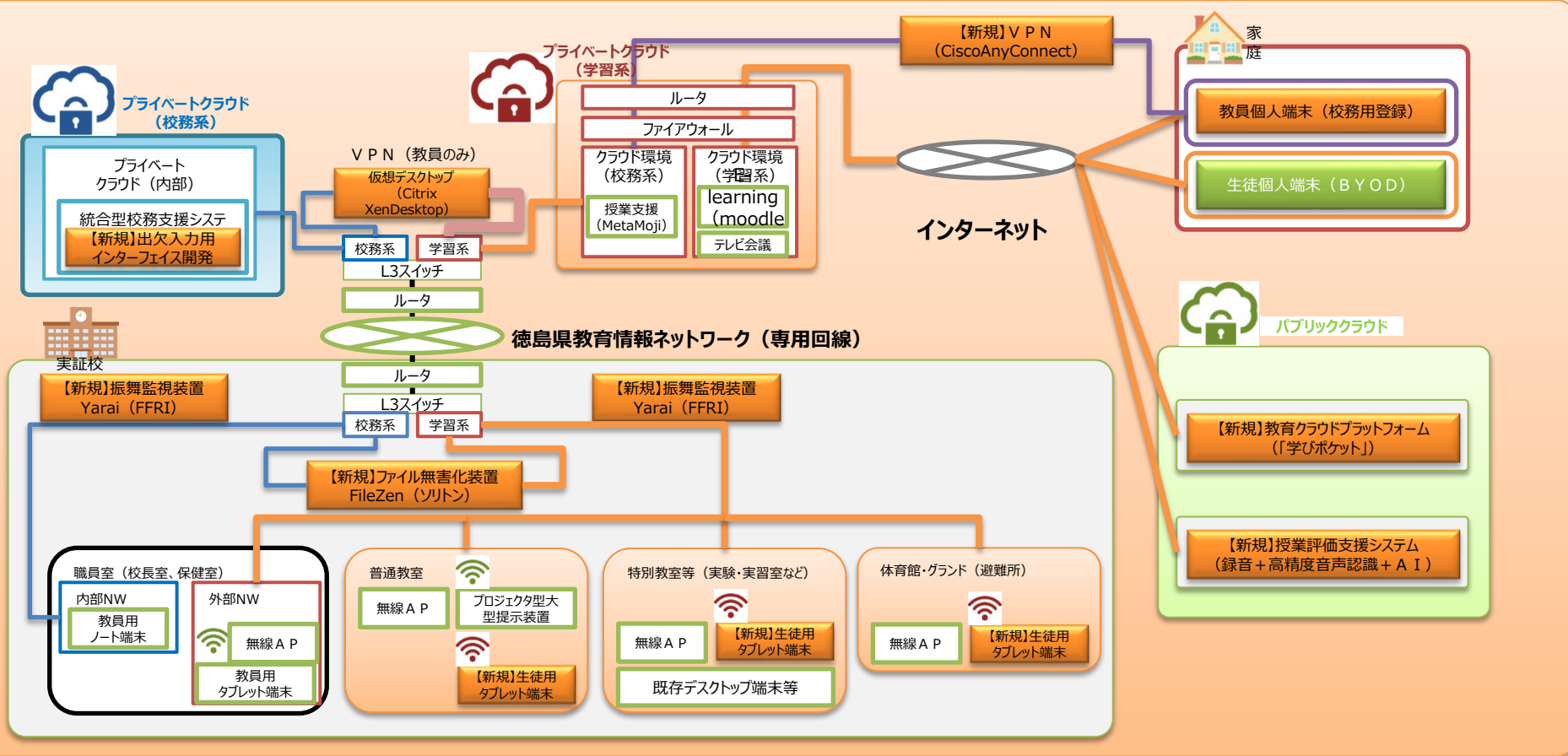
個人情報保護対応

本事業において、パブリッククラウドで生徒の個人情報を格納することに関し、平成30年5月：徳島県個人情報保護審査会に諮問予定
 平成30年7月：徳島県個人情報保護審査会に答申予定
 平成30年7月：保護者説明予定
 【徳島県個人情報保護条例】
 第八条2 実施機関は、次の各号のいずれかに該当するときに限り、オンライン結合により個人情報を提供することができる。
 三 前二号に掲げる場合のほか、徳島県個人情報保護審査会の意見を聴いた上で、公益上の必要があり、かつ、個人の権利利益が侵害されないよう必要な措置が講じられていると認められるとき。

KPI（主なもの）

- ① ネットワーク円滑化モデル
 【KPI】 データ受渡に要する作業時間
 【実証校全体での効果】
 4,000時間/年削減（5分/（人・日）×240人×200日）
 【KPI】 出席簿に記入しシステムに入力する時間
 【実証校全体での効果】
 12,000時間/年削減（15分/（人・日）×240人×200日）
- ② コスト軽減モデル
 【KPI】 ネットワーク機器運用管理に要する時間
 【実証校全体での効果】
 200時間/年削減（30分/回×2回/週×40週/年×5校）
 【KPI】 教職員研修旅費
 【実証校全体での効果】
 120,000円/年削減（3,000円/人×40人（対象者数））
- ③ EdTechモデル
 【KPI】 教員が生徒の学習評価に要する時間
 【実証校全体での効果】
 240時間/年削減（5分/月×12月×240人）

実証概要図（H29年度末想定）



セキュリティ

- ・校務系ネットワークと授業・学習系ネットワークは文部科学省「情報セキュリティポリシーのガイドライン」に基づき、論理分離（上記図中②）
- ・仮想デスクトップサーバと統合型校務支援システムサーバ間は、IP制限によりアクセス制限、SSLによる暗号化通信、OAuth2.0認証（上記図中①）
- ・パブリッククラウドと学習ネットワークは、VPNによる閉域とし、同一ネットワーク化（上記図中③）
- ・生徒端末からの学習系システムへのアクセスはSSLによる暗号化通信（上記図中⑤）
- ・統合型校務支援システムへの教員アクセスは、ログインID認証、ICカード認証（二要素認証）（図中④）

解決しようとする課題・ニーズ

- 外部記録媒体を頻りに利用することによる情報セキュリティリスクの低減を図りたい。
- ネットワーク分離環境でデータ受渡等に教員の負担感を解消したい。
- 教室等から校務系システムへ発生源入力できないため、校務処理効率低下を招いている状況を改善したい。

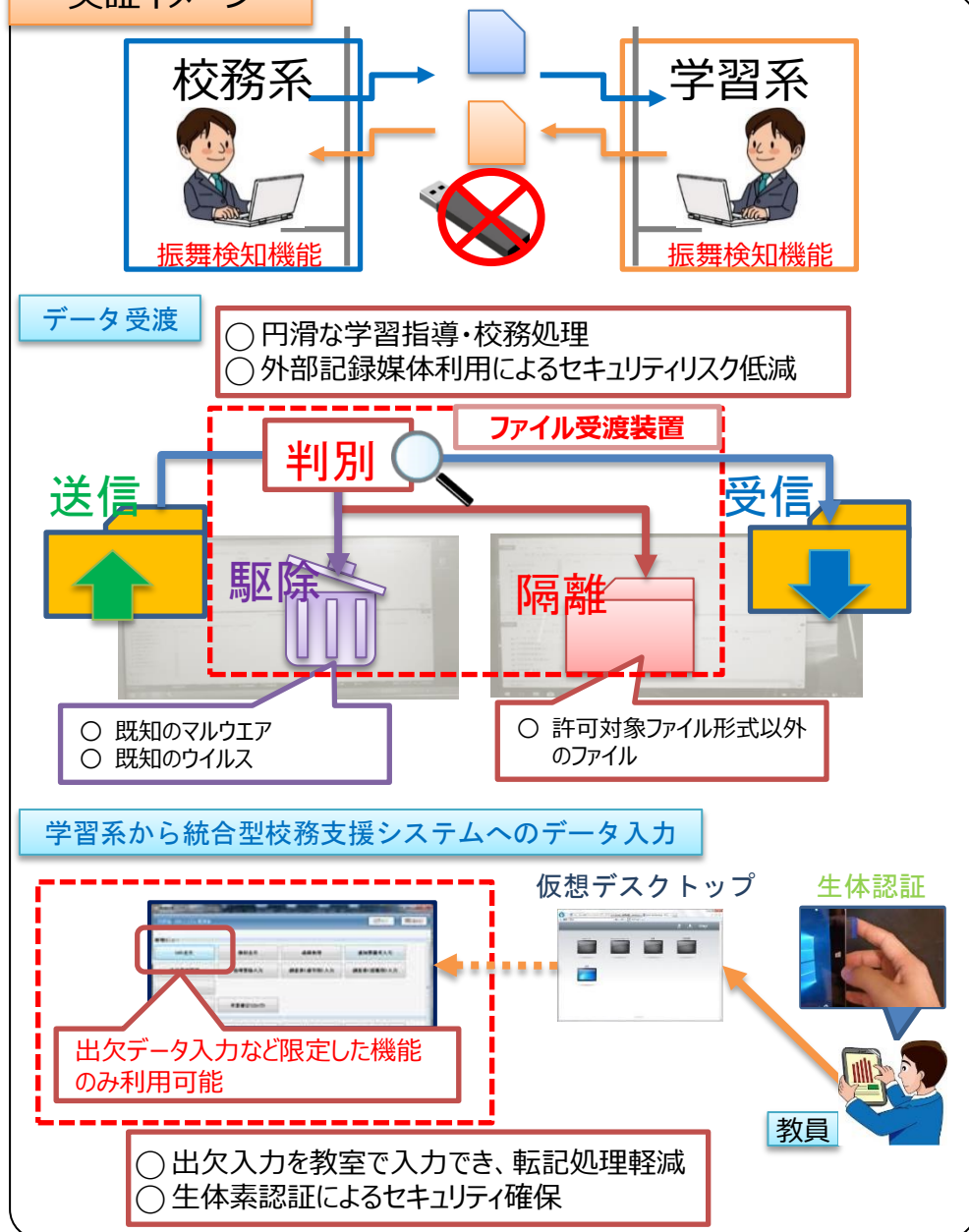
期待する効果

- 教職員の校務負担が軽減する。
- 統合型校務支援システム等の円滑な活用が進む。

効果検証

- 学習系ネットワークと校務系ネットワーク間のデータ受渡に要する時間を比較する。
- 学習系ネットワークと校務系ネットワーク間のデータ受渡に要する時間を比較する。
- 統合型校務支援システムを利用した授業等における出欠席データ入力に要する時間を比較する。

実証イメージ



解決しようとする課題・ニーズ

- 教員研修での教員の負担感、旅費の削減が求められていることへ早期に対応したい。
- W i - F i 環境におけるネットワーク担当者のセキュリティ対策・運用管理の負担を軽減したい。

期待する効果

- e-learningに変更した研修に要する旅費等が削減される。
- W i - F i 機器の一元管理により教職員の対応時間が削減される。

効果検証

- 研修に経費を実証前後で比較する。
- 学校の担当者のW i - F i 管理に要する時間を実証前後で比較する。

実証イメージ

e-learning研修



クラウド



- 出張の軽減
- 教員の状況に応じて受講
- 研修の振り返り

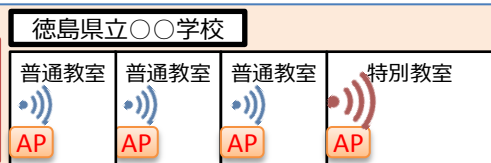
- 進捗状況一元管理
- データ解析による適切な指導



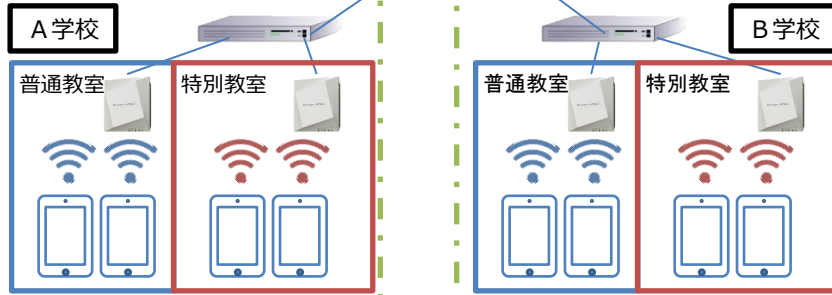
クラウドを利用した無線A P一元管理

クラウド

- 担当教員の校務負担軽減
- 機器調達の一元化によるコスト削減



教育情報NW



解決しようとする課題・ニーズ

- ICT 機器を活用し、生徒の興味関心を高める授業を実践したい。
- 生徒の学習意欲や学習到達状況に応じた学習環境を構築し、学力の向上を目指したい。
- アクティブラーニング等における学習評価への対応が求められている。

期待する効果

- 教員の生徒評価に要する時間が短縮される。
- 生徒の学習活動が見える化できる。
- 教員間で生徒の学習活動に関する情報を共有できる。

効果検証

- 教員の生徒評価に要する時間を実証前後で比較する。

実証イメージ

